

# 読者のページ

## 「都市と港湾」の特集を読んで

計画局 田代 透

「都市と港湾」の特集を読んで、港を横浜の顔と思っ  
て、直接かかわってはいなく、その内情をよく知らない私にとっ  
て勉強になった。今回の特集の  
中で大きな問題の一つは、横浜  
の象徴である港の横浜での価値  
の再認識だと思ふ。

旅客定期航路が船から航空機  
に変わり、横浜港の機能が人から  
物に変わって、市民の港への意識  
は薄れていった。しかし、象徴  
としての港は今も横浜の中にあ  
ると思う。そこで物だけの機能  
である港をこんどは人間の生活  
での場である都市の面から人と  
港との融合をはかってゆくこと

が考えられていた。

市民との接点として港湾計画  
の中でいくつかの公園が計画さ  
れているようである。そして別  
な方向からふれ合いの場をつく  
る計画が、都心部再開発の一環  
として、港湾に隣接している部  
を都市機能に変える。それもレ  
クリエーションの場でなく、日常  
生活の場である業務・商業など  
が計画されている。これはいま  
までと違った市民とのふれ合い  
が考えられたのしみである。

また、港でもかつて生活の場  
であった市内のいくつかの漁港  
が都市化により廃港となり、そ  
の情緒的姿が消えてゆくのは残  
念です。

### 港のイメージ

企画調整局 中野輝樹

生まれも育ちも神奈川区だっ  
た私は、小学生の頃しばしば自  
転車で港へ行った。その当時に  
はまだかなり自然の残っていた  
神大寺あたりより、港を好んで  
いた。子供は誰も同じだろうが  
私は船、工場、クレーン等巨大  
なものに対する憧憬が強かつ  
た。そして港に対するイメージ

も、これらを中心としたもので  
あって、それは私の都市に対す  
るそれと重なり合っていた。こ  
のようなイメージの内容には、  
「殺伐とした」という言葉がよ  
くあてはまるが、私には快い感  
覚を伴ったものであり、現在  
でもほぼ同様である。

ところで、現在の社会通念で  
は、都市は自然と調和してい  
べきものであろうから、当然殺  
伐とした感じを与えるものはな  
るべく減らして、快適な生活環  
境を生みだす、ということにな  
る。しかし私は都市に存在する  
殺伐としたものに対する魅力を  
捨てきれないような気がする。  
それは、都市で生きていく人間  
には必要な感覚ではないだろう  
か。都市が次第に体裁よく整っ  
ていくにつれて、そこに生活す  
る人間はこのような感覚を失な  
っていくようであるが、それが  
はたしてよいことなのかどうか  
疑問に思うことがある。人間の  
生活を幅広く豊かにしていくた  
めには、多様な刺激とそこから  
生ずる多様な感覚が——それが  
すべて有用かどうかは別として  
も——存在することが好ましい

ことであろう。そこから個々人  
は望むものを取捨選択すること  
ができるのであるから。

### 前号の調査季報(特集—都市 と港湾)を読んで思いついたこ とを書いてみたが、今後、港の 整備により、港湾のなかにも公 園が造られていくようである。

港に市民の憩いの場所を造ると  
いうことよりも、私は、以上書  
いたように殺伐としたものに市

### へあとがき

文化の問題は四十一年の第11  
号でもとりあげている。「文化  
を芸術・文芸等の狭い意味に限  
定せず、市民の生活内容・構造  
を含む広い視野で考える」点は  
今回も同じである。前回が横浜  
文化とは何かを論じているのに  
対し、今回は「文化行政」が全  
国的に論じられ実施されている  
なかで、横浜では何が課題なの  
かを考えてみた。前半で文化と  
行政の関係を全般的にみたくえ

後半で横浜の文化の現状を各分  
野にわたって具体的に報告して  
いただいた。全体をとおして横  
浜の文化に行政がどうかかわっ  
ていくべきかを考える一つの素

民が接するという意味から、港  
の公園を早く造ってほしいと思  
っている。極端なことを言えば  
木や緑の少ない公園を。

「調査季報」は職員が自由  
に意見を發表し討論する研究  
誌です。「行政研究」への投  
稿も歓迎します。二〇〇字詰  
五〇枚以内。  
この「読者のページ」へも  
ご投稿ください。市政、都市  
問題、自治体問題等、題材は  
自由。八〇〇字以内。

材となれば幸である。文化の活  
動は多方面にわたる。今回とり  
あげたのはその一部であって、  
他にも多くの分野があることを  
お断りしておきたい。

港を中心に発達してきたヨコ  
ハマ文化も、港の役割変化と都  
市の急膨張につれて変容してき  
ている。定着してきた新市民が  
どう文化をつくっていくか  
が、これからの横浜文化を考え  
るひとつの焦点になると思われ  
る。

なお昨年行った横浜市民の生  
活構造の調査結果を近く刊行す  
る予定であり、横浜市民の文化  
状況の基礎資料として、併せて  
ご覧いただきたい。〈北小路〉